

ごあいさつ

拝啓

桜も満開の時節を迎えましたが、親愛なる日本歴史言語学会の会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。新年度にあたり、ごあいさつを差し上げます。

わが国の歴史言語学振興をめざして2011年に発足した本会は今年で6年目を迎えます。その間、後藤敏文、千種眞一両会長のリーダーシップのもと、学会誌『歴史言語学』を市販本として創刊し、大阪大学、千葉大学、東北大学、国立民族学博物館、そして北海学園大学にて年次大会を開催することができました。誌面ないし大会で取り扱われた言語は日本、ゲルマン、インド・イラン、バルト・スラブ、オーストロネシア、セム、中国、朝鮮そしてアイヌ、さらには古代エジプトのコプト等々の各語に及びます。ギリシア・ラテン等々については今後を俟たねばなりません。対象言語・方法論の枠を超えてわが国の歴史言語学を振興し、研究者相互の交流と切磋琢磨を行う母体を構築するという所期の目的はほぼ達成されたと言えましょう。これまで各方面でご協力いただきました方々にはこの場をお借りして篤くお礼申し上げます。

さて、今後は運営を安定させるべく、徐々に規模と活動を拡充し、本会と『歴史言語学』の露出と世間における認知度を高めて行かねばなりません。そのため、このたび仰せつかりました2年の任期の間に何よりも目指したいのは大会と『歴史言語学』の一層の充実、そして未だ実現に至っていないモノグラフシリーズの発刊であります。さらに、特に若い方々に歴史言語学に親しんでいただくべく、春季等、他イベントが疎らな時期を選んで、啓蒙的な講演会ないしセミナーを開催することなども検討して行きたいと考えます。

つきましては、『歴史言語学』への投稿、大会での口頭ないしポスターによる研究発表、モノグラフシリーズへの応募等に関し、会員諸兄には従来にも増して前向きにご検討いただき、講演その他の企画にご協力いただくなど、なお一層のお力添えを賜りますよう伏してお願い申し上げます。

蛇足ながら、別途案内がありますように、本年の大会は11月19日と20日、福岡都心にて開催されます。折良く大相撲九州場所も開催中ですので、宿の手配はお早目にお済ませいただき、大会前日にでも相撲観戦を楽しまれてはいかがでしょうか。福岡でお目にかかるのを心待ちにしております。

敬具

2016年4月吉日

日本歴史言語学会会長 神山孝夫 拝

日本歴史言語学会会員の皆様